

# 複合的資源管理型漁業促進対策事業\*

抄 録

## － ヒ ラ メ －

吉村 晃一

### 目 的

平成5年度からヒラメの資源管理手法を検討するための調査が始められ、平成9年度に底びき網漁業のヒラメ資源管理計画が関係漁業者等の協議を経て策定された。これを受けて今年度から資源管理対象漁業である小型底びき網漁業および同一系統群を漁獲していると考えられる紀伊水道外海のヒラメ刺網漁業のモニタリング調査を実施することにより、漁業実態および資源管理効果を把握することを目的として実施した。

なお、詳細については「平成10年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書、和歌山県」（平成11年3月）に報告されている。

### 方 法

調査項目および調査内容は次のとおりである。

- 1 漁業実態調査：雑賀崎・湯浅中央（いずれも底びき網対象）および比井崎・南部町（いずれもヒラメ刺網対象）の各市場での漁獲量、出漁日数（または出漁隻数）および漁獲金額等の調査
- 2 標本船調査：底びき網漁業標本船（雑賀崎漁協所属の2級船1隻と3級船2隻、塩津漁協所属3級船1隻、大崎漁協所属2級船1隻および湯浅中央漁協所属3級船1隻 合計6隻）の毎操業日ごとのヒラメの漁獲尾数と再放流尾数、操業海域、操業回数、漁獲物、漁獲金額、油代、氷代等の記帳調査
- 3 生物生態調査：上記市場での買い上げ魚の生物学的精密測定

### 結 果

#### 1 漁業実態調査

ヒラメ漁獲量等の動向 ヒラメの漁獲量等の動向を見るために、調査市場における1993年度から1998年度までの間のヒラメ総漁獲量および出漁日数当たり（または出漁隻数当り）の漁獲量（C P U E）を月別に整理した。

本年度の全般的な特徴は、漁獲盛期が遅れたことおよび漁獲量が前年に比較して低位に推移したことである。

小型底びき網漁業で見ると、雑賀崎では前年度より減少、湯浅中央では前年度の1/2以下と大幅に減少した。刺網漁業では比井崎で前年度程度、南部町では減少が本年度も続き、1995年度の15.3ト

\* 水産業振興費による。

ンから 9.2 トンと 10 トンを下回る結果となった。

**小型底びき網漁獲量等の動向** 底びき網漁獲物の魚種組成を見るために、雑賀崎漁協共同出荷分の魚種重量構成比率を整理した。アカシタビラメの漁獲が卓越していて本年度も 1995 年度以降の高水準(40%前後)を維持している。一方、それ以外の魚種組成では、カレイ類、アナゴ類およびスズキは前年度よりも 17～46%、逆に、マダイ、ハゲ類、クロダイおよびエビ類(小エビ類を含む)は増加となった。

## 2 標本船日誌調査

雑賀崎・大崎漁協の標本船 4 隻について、ヒラメ漁獲尾数を 3 ヶ月ごとに取りまとめた。全漁獲尾数は 328 尾あり、そのうち、種苗放流由来魚と見られるものは 3 尾であった。

さらに、これら 4 隻については、漁場分布を見るために操業海域を月別に、農林漁区(5 分柵目)に整理した。ヒラメ漁獲量が高水準であった 1995 年度の漁場が紀ノ川河口周辺での操業割合が高かったのに比較すると、今年度はそれよりも南の和歌浦湾～湯浅湾沖の操業割合が高くなっていた。

## 3 生物生態調査

今年度のヒラメの生物的な特性を記録するために、1998 年 7 月から 1999 年 3 月までの間に 99 尾の買い上げを行い、全長、体重、背鰭・臀鰭条数、生殖腺重量、肝重量、および胃内容物等の精密測定を行った。